

— NO. 200 9月号

FOREST NEWS

広げよう
地球と命を守る
森づくり運動



2024年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーを通じて植樹活動の啓発
- ⑤他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

発行人 高津啓洋

〒121-0072東京都足立区保塚町1-6

Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



理事長メッセージ

パンタナール潜在自然植生 ケブラッチョ

家庭から出る生ゴミが気候変動と大気汚染をもたらす！

地球表面の気温は何によって決まるのでしょうか。大気中の二酸化炭素、二酸化窒素、メタン、水蒸気などを温室効果ガスといいます。私たちの生活圏の平均気温は通常14°Cに保たれているのですが、それは温室効果ガスによるものです。この温室効果ガスがなければ、太陽光で温められた地表の熱はすべて赤外線となって宇宙に放出され、地表の平均気温は-19°Cまで下がります。これは、農業用ビニールハウスの中の空気が太陽光で適度に暖かくなるのと同じ理屈で、「温室効果」という言葉もこれに由来しています。ところが、何かの原因で温室効果ガスの濃度が高くなれば、その濃度に比例して地球表面の気温は上昇します。その「何かの原因」というのが、人間活動によって排出される膨大なものです。毎日のように家庭の台所から出る生ゴミは97%が水分で、通常は燃えません。ところがそれが“燃えるゴミ”に分別され、終末処理場で800度以上の高温で焼却されるのです。その煙突から排出されるCO₂やPM_{2.5}（微小粒子状物質）などの有害物質が、地球温暖

化と大気汚染をもたらしているのです。

モンゴルの首都ウランバートルでは、石炭を主な燃料としていることもあって、大気汚染の数値が国際基準値の133倍に達し、5歳未満児の死亡原因の2位が肺炎や気管支障害であるという調査結果が出ています。

地球上どの場所であっても、人間活動で排出されたCO₂は樹木に吸収され、幹や枝として固定されます。これを生態系の「炭素循環」といいます。つまり「脱炭素」といっても特別な方法があるわけではなく、生態系の炭素循環の原則に従うことが、私たち人間にできる最良の方法なのです。その炭素吸収源である森が急速に消えていっている現実を直視すべきです。企業を含め、1人1人がCO₂を出しているわけですから、1人1人が木を植えて生態系のバランスを取り戻すべきです。自分と自分の愛する人のいのちを人まかせにはいけません。明日とは言わず、今すぐ大地に手を触れて木を植えましょう！

パンタナール潜在自然植生3 ケブラッチョ

高耐久性木材として重宝

ケブラッチョという名前の由来は、スペイン語でとてつもなく硬い事から、「斧を折る」の意味といわれています。成長は遅く、心材は赤褐色で樹高 10~20m、直径 50~60cm になる樹木です。



赤褐色の心材

この木材は、その硬さのために加工は困難ですが、建築、土木、牧場の柵などで、直線性よりも耐用年数が求められる用途に幅広く利用されています。耐久性はアルゼンチンやボリビアで枕木として使用されており、交換サイクルは50年という強固さ。その硬さからフラメンコの舞台材としても使われています。



牧場の柵に使われている



船着き場の支柱に使用
(施工後約60年)

植物タンニンと皮革のなめし

皮革のなめしとは、革製品に使われる動物の生の皮を植物タンニン液に長時間浸すことで、繊維を引き締め腐敗を防ぎ、柔軟性や強度を備えるようになります

植物タンニンはあらゆる植物に含まれる、ポリフェノール化合物の一種で、なかでもケブラッチョの樹皮から抽出した植物タンニンは良質で、木質部にタンニンが30~35%含まれており、収斂性があります。昔から、皮革のなめし剤としても重用されてきました。



クロマツに似た外皮

ケブラッチョの植物タンニンはやや赤みがかった色をしており、なめし剤に用いることによって、温かみのある色の革を作ることができるといわれています。また、耐久性などに優れているため、重宝されてきました。

ケブラッチョは生育期間が長いため、過度な伐採によるタンニンの採取が問題となっていました。現在は積極的な植林によって改善傾向にあります。



赤褐色の心材

今月のトピック

調布市「花いっぱい運動事業」に参加しています

活動場所(植付け場所)

布田南ふれあい公園

(京王線布田駅徒歩3分)

1年に2回、6月と12月に布田

2007年に花いっぱい運動事業に登録し、多摩川広場を担当、2021年春からは布田南ふれあい公園を担当し活動を続けています。

活動内容は毎年、6月と12月の年2回の花植えを行い、その後花の水やり、草刈り、植え替えなどを行っています。これにより地域の公園を美しく保ち、地域住民の方々の生活環境の潤

いに貢献しています。

また、地域の人々と交流のきっかけにもなり、花植えと一緒に参加してくださる方や「ありがとうございます」と挨拶をしてくれる方など心温まる達成感を感じています。自然を守り育てる大切さを学び、次世代に住みやすい環境を残すという意識も高まります。

「花いっぱい運動事業」は明るく潤いと安らぎのある調布を目指して、花苗を植え、花を咲かせて地域の緑を豊かにすることを目的に緑化活動を進める市内の地域グループに対してその活動に要する経費を一部補助する事業です

